



Vol.22

第 22 回のテーマはこちら

## 知っていますか？アセリオの投与量

～[7.5mg/kg？][10 mg/kg？][15mg/kg？]～

言わずと知れた疼痛緩和に不可欠な「アセトアミノフェン」。その注射液である「アセリオ」。普段からよく使っているかと思いますが、実はその用量に少し注意が必要なことをご存知でしょうか？

一般的な小児へのアセトアミノフェンの使用方法は以下になります。

〈小児科領域における解熱・鎮痛〉

通常、乳児、幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 10～15mg を経口投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 60mg/kg を限度とする。ただし、成人の用量を超えない。また、空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

おそらく多くの方はこの[10-15mg/kg]という用量で使用していると思います。

ですが、アセリオだけ実は 2 歳未満に限り用量が違います。

〈2 歳以上の幼児及び小児における疼痛及び発熱〉

通常、2 歳以上の幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 10～15mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 60mg/kg を限度とする。ただし、成人の用量を超えない。

〈乳児及び 2 歳未満の幼児における疼痛及び発熱〉

通常、乳児及び 2 歳未満の幼児にはアセトアミノフェンとして、体重 1kg あたり 1 回 7.5mg を 15 分かけて静脈内投与し、投与間隔は 4～6 時間以上とする。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日総量として 30mg/kg を限度とする。

2 歳以上の小児患者に対する用量はアセトアミノフェンの経口製剤や座薬と同じく[10-15mg/kg]で統一されているのですが、注射液であるアセリオだけ[7.5mg/kg]と適切な用量が異なります。理由としては海外での研究により「**2 歳未満の小児ではクリアランスが低い**」ことが示唆されたためです。

医師の指示を確認するときに用量もしっかり意識することができれば適切な痛みの評価にもつながると思いますのでぜひ覚えておいてください。

引用元  
医薬品インタビューフォーム

あひるのマーチ